

堀江車両電装 鉄道車両の整備・点検

鉄道車両の整備・点検で実績のある堀江車両電装（東京・千代田）は、障害者の就労支援サービスを第2の事業の柱に据えている。身体・精神障害者らを受け入れて、実習などで本人の適性を判断しながら就職先を紹介する。就職後も相談に応じるなど、きめ細かな対応を続ける。

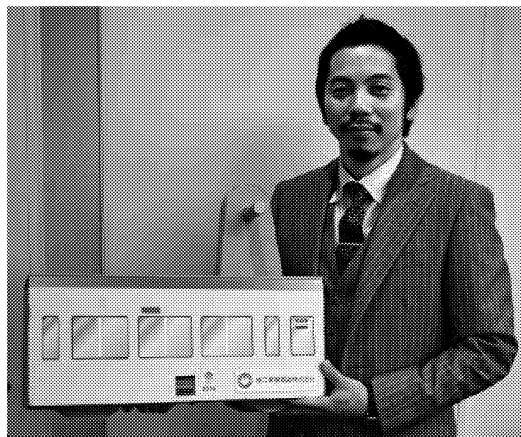
ミドル企業



ある平日の午後、都内のオフィスに就職活動中の男性が訪れた。「自閉症で人と話すことが少し苦手なのですが、就職先を探しています」「色々な求人があるので、ゆっくり探していきたいと思います」。男性から話を聞いた女性社員は早速、求人リストを検索し始めた。

堀江車両電装は201

障害者就労支援、第2の柱 ■ 就職希望300人登録



堀江社長は15年にビルのメンテナンス事業を買収し、障害者雇用の受け皿とした

4年に障がい者支援事業部を立ち上げた。障害者を採用したい企業と就職希望者のマッチングサービス「トライアングル」を手がける。障害者雇用を推進するジョブコーチ（職場適応援助者）や社会福祉士の資格を持つ社員が相談に応じる。

サービスは身体・知的障害者の他に、うつ病などで一度働けなくなった人が再就職先を求めて利用する例が多い。就職前に実習制度を利用できるのが特徴で、人と話すのは苦手でもパソコン作業が得意など、実習中に適性を判断する。就職後も無料で相談に応じる。

鉄道車両の整備で約50年の歴史を持つ企業が、なぜ障害者の就労支援を始めたのか。原点は4代目の堀江泰社長のボランティア経験にある。今から約6年前、堀江社長は知的障害者によるサッカーワールドカップの映像

とらせている。4年に障がい者支援事業部を立ち上げた。障害者を採用したい企業と就職希望者のマッチングサービス「トライアングル」を手がける。障害者雇用を推進するジョブコーチ（職場適応援助者）や社会福祉士の資格を持つ社員が相談に応じる。サービスは身体・知的障害者の他に、うつ病などで一度働けなくなった人が再就職先を求めて利用する例が多い。就職前に実習制度を利用できるのが特徴で、人と話すのは苦手でもパソコン作業が得意など、実習中に適性を判断する。就職後も無料で相談に応じる。鉄道車両の整備で約50年の歴史を持つ企業が、なぜ障害者の就労支援を始めたのか。原点は4代目の堀江泰社長のボランティア経験にある。今から約6年前、堀江社長は知的障害者によるサッカーワールドカップの映像とらせている。

《堀江車両電装の会社概要》

- ▽本社 東京都千代田区
- ▽事業概要 鉄道車両の整備・点検
- ▽創業 1968年
- ▽従業員 62人（パート含む）
- ▽売上高 約5億5700万円

（2018年5月期）

トライアングルには現在、採用企業側が金融機関など約50社、就職希望者が約300人登録している。企業や利用者との信頼関係を築くのに3年ほどかかったが、利用者の口コミを中心に認知が広がってきた。障害者向けのスポーツにも挑戦を始めた。段ボールを集めて、1辺が5・4辺のゲーム装置「野球盤」を製作。3月に都内の特別支援学校で試合を催した。ヒモを軽く引けばバットでボールを打てる仕組みにし、重い障害があっても参加しやすい。今夏にも次の試合を開催したい考えだ。現在は鉄道車両の整備事業が売上高の8割以上を占めるが、今後は障害者就労支援の比率を高めていく。堀江社長は「鉄道会社との取引関係やビルの清掃ノウハウを生かす。今後は駅やホテル内の清掃などに事業を広げていきたい」と展望を話す。（瀧山美穂）